

東日本大震災－新潟県医師会医療支援の記録

医療支援記録集編集特別委員

勝 井 豊

今回の経験を今後に生かすために継続すべきこと。医療関係者や行政機関や市民が、被災地のために、それぞれの立場で真剣に取り組んだことは、素晴らしいことです。この機運が維持されるようにすべきであると考えます。そのためには3月11日には必ず記念となる行事や企画を立てるべきです。

今回の経験を今後に生かすために改善すべきこと。JMAT チームを発災後10日以内に被災地に派遣できるように、普段から体制を整えておくべきです。被災地では災害に対応するための安定した体制を一刻も早く作るために、全力で取り組んでいる筈です。体制が出来てしまってから支援チームを派遣しても意味がないと考えるべきです。石巻市への救援については、3月25日に新潟県医師会からの最初のチームが派遣されていますが、明らかに遅れたように思います。「医療チームは確保できていますので、義捐金などで協力をお願いします」などと言われるようなことが今後生じたのでは、極めて不名誉なことです。

今回の経験を今後に生かすために新たに行うべきこと。災害時の体制は普段のときに既に防災計画として作られており、訓練も毎年実施されている筈ですが、その内容の良し悪しが被災者の命運や支援チームの受け入れに決定的な影響を及ぼすと考えるべきです。防災計画が机上のプランとして、関係者の専有物のようにないかを検証すべきです。市民や医師会は災害時のマニュアルを作り、その内容を普段からしっかりと確認しておくべきです。たとえば生鮮食料品は3日分、保存のできる食品は7日分、電池などは1か月分位を普段から備蓄しておけば、災害時に買い占めなどをしなくても済むと思います。また石巻圏合同救護チームは極めて優れたシステムでしたので、お手本にすべきです。特に「エリア・ライン制」は数百の医療チームを一元的に統括できる画期的なものですが、刻々と変わる多くの情報を迅速に整理整頓する手法は災害対策には不可欠のものと考えます。